

## イエシュアの最後の啓示

2009年8月30日 アシェル・イントレーター

### 最新のニュース

#### イラン人ハッカー

今週末、イランのイスラム教ハッカーらによって、リバイブ・イスラエルのホームページが破壊されました。この攻撃は、私たちがイスラエル人でユダヤ人であるからなのか、それともイエシュアや福音に関する教えのためなのか明確ではありません。恐らく両方の理由からでしょう。私たちのスタッフ、機材、教材が守られますようどうぞお祈り下さい。興味深いことに、スタッフの内3名の家族は1950年代にイランから逃れてイスラエルに移民しました。

#### マドンナのコンサート

マドンナはテル・アビブのスタジアムで二晩に渡ってコンサートを行います。マドンナは、ニューエイジの神秘主義とユダヤ伝統が組み合わされた「カバラー(注)」によって霊的な経験をしたと述べています。彼女は「エステル」という名を名乗り、安息日その他を守ると宣言しています。私たちの会衆メンバーの何名かはコンサートで行われる Jew For Jesus (ジュー・フォー・ジーザズ)主催の福音伝道活動に参加する予定です。どうか救いのためにお祈り下さい。

注:カバラー:ユダヤ教の伝統に基づいた創造論、終末論、メシア論を伴う神秘主義思想である。独特の宇宙観を持っていることから、しばしば仏教の神秘思想である密教との類似性を指摘されることがある。(Wikipediaより抜粋)

#### イスラエルの青年会議

今週末に行われるスカット・ハレル(コングリゲーション名)とリック・ライディングス師が主催する「エラヴ」全国イスラエル人青年総会が実を成らすようお祈り下さい。私たちのコングリゲーションのメンバーやスタッフはこの会議の計画に重要な役割を果たします。若いメシアニック信者の共同体は毎年強く成長しています。アシェルは結びのメッセージを行いました。以下がその内容です。

---

#### イエシュアの最後の啓示

新約聖書全体を通して、イエシュアは徐々に啓示されています。福音書で主はガリラヤで成長し、教え、奇跡を行いました。弟子たちは主の十字架や神性について理解を深めました。最後に、黙示録においてイエシュアはすべての栄光と権威を顕しました。

また、私は開かれた天を見た。見よ。白い馬がいる。それに乗った方は、「忠実また真実」と呼ばれる方であり、義をもってさばきをし、戦いをされる。その目は燃える炎であり(中略)天にある軍勢は真っ白な、きよい麻布を着て、白い馬に乗って彼につき従った。この方の口からは諸国の民を打つために、鋭い剣が出ていた。この方は、鉄の杖をもって彼らを牧される。この方はまた、万物の支配者である神の激しい怒りの酒ぶねを踏まれる。(黙示録 19:11-16)

今年の夏は「ウッドストック」(注)フェスティバルの 40 周年です。イエシュアは最初の「フラワーチャイルド(注 2)」として見えたでしょう。主はもう一方のほほを出しなさい、敵を愛しなさい、持ち物を与えなさいと語りました。カリスマ派の青年会議で、イエシュアの「フラワーチャイルド」のようなお姿に彼らが身近に感じることは難しいことではありません。(長髪、白いローブ、サンダルなど)

注: ウッドストック: (Woodstock Music and Art Festival) は 1969 年 8 月 15 日(金)から 17 日(日)までの 3 日間、アメリカ合衆国ニューヨーク州サリバン郡ベセルで開かれた、ロックを中心とした大規模な野外コンサート。ウッドストック・フェスティバルは、カウンター・カルチャーを集大成した、1960 年代のヒューマンビーイングと呼ばれる人間性回復のための集会でもあり、音楽イベントとしてのみならず、ヒッピー時代の頂点を示す象徴と捉えられている。

注 2: フラワーチャイルド: フラワーチャイルドもしくはフラワーチルドレンとは、ベトナム戦争時代、愛と平和の象徴として花で身体を飾り、愛と平和を訴えたヒッピーである。アメリカの若者たちの運動が広がり、自然を愛した反戦、平和主義者たちの総称。1967 年、特にサンフランシスコおよび近郊でヒッピーの同義語として浸透した。彼らの有名な一言として『武器ではなく、花を』というキャッチフレーズが挙げられている。(両方とも Wikipedia より抜粋)

イエシュアのご人格のこれらの側面は正しい一方、もちろんそれがすべてではありません。もし主と共に真理に基づいて歩むなら、主の偉大で恐るべき側面も見なければなりません。もしあなたが主と共に「高揚」したいだけなら、会議で「心高まる」時を持つことができるでしょうが、あなたの日常の歩みは不安定なものとなるでしょう。

弟子訓練とはイエシュアの似姿に合わせていくことです。私たちはガリラヤ湖畔のイエシュアに合わせていきますが、主が炎に包まれて再臨される似姿へも合わせて行かなければなりません。私たちはへりくだって主と一緒にロバに乗り、征服するため主と共に白い馬に乗るのです。

私たちの会議でペンテコステの炎を受けたいと思っています。その炎とは弟子たちが使徒 2 章で受けたもので、黙示録 19 章のイエシュアの目にある炎と同じです。私たちはそのようなイエシュアを受け入れることによって、そのような炎を受け取るのです。

私たちは心にイエシュア、主の半分だけでなく主のすべてが住まわれるよう受け入れたいと思います。ガリラヤのイエシュアが私たちの内に住まわれる時、私たちは周りの人々に対して忍耐、親切、

謙遜を示すことができます。黙示録のイエシュアが私たちの内に住まわれる時、私たちは世界、人々、そして悪魔に対して勝利を得ることができるのです。

聖書の中に、愛なる神と恐るべき神との間に完全なバランスがあります。私たちはイエシュアにおいてこの両方のお姿を把握するなら、これら両方のご性格、その恵みと聖であられることが同じように私たちの中にとどまるのです。

神の恵みはイエシュアがご自身を捧げるというご意思によって明らかにされています。十字架で死なれたお方が、天の軍勢の偉大な恐るべき総司令官であるということを理解した時、その恵みはより驚くべきものとなります。主は御使いの師団に命令して一瞬のうちに我々を破壊することもできるのです。

どれほど私たちの中で奇跡が起こることを望んでいることか！信者の間で神に対する恐れがある時にしるしと不思議が起こります(使徒 2:43; 5:11-12)。黙示録でイエシュアの「もう半分」を見ることによって、私たちの中で神の十全さ、恐れを得ることとなり、奇跡も同様に得ることとなるのです。

イエシュアは3度、主の御使いとして抜き身の剣を持って律法書と預言書(注:旧約聖書のこと)の中に現れました。民数記 22 章でバラムに、ヨシュア記 5 章でヨシオアに、I 歴代誌 21 章でダビデに現れました。この3つすべての場面において、主は剣を手には持っていました。しかし黙示録 19 章では剣は主の口から出てきています。これは、真の霊の剣は神の御言葉であることを示しています。

主は聖徒たちに、終わりの時に神の御言葉を使徒的権威と預言的油注ぎを持って語って欲しいと願っておられます。若い世代のイスラエル人信者はこのような言葉を口にして立ち上がります。イエシュアが私たちの内にいて、そこから権威と油注ぎは出てきます。主の最後の啓示を持って、その主を受け入れる時、私たちはそのような剣のような預言の言葉を持つこととなります。

多くの人々は恐怖と不安に苦しみます。ある者は、終わりの時の艱難時に自分はその場にいらないという臆病な神学にしがみついています。しかし、神は私たちを「征服者以上」となるよう呼んでおられます。黙示録のイエシュアが私たちの内に住まわれるならば、私たちは二心のある、この世的な、そして妥協する信者から、世界、人々、そして悪魔に打ち勝つ聖徒に変えられるのです。

主は天の軍勢の総司令官であり、私たちは聖徒たちの軍勢として招集されており、聖さと従順をもって主に従うのです。